

ゼパニヤの預言

ゼパニヤは、ユダが紀元前五八七年に滅ぼされる前の数十年間に活躍した預言者です。ゼパニヤが宣教した時、ヨシヤ王はゼパニヤの預言で奮起し、六二一年には徹底的な改革を始めました。しかし、これらの改革はあまりにも現実性に乏しく、遅きにすぎたのです。人々はすぐ悪の道に逆戻りし、都はバビロン軍の侵入で滅びました。ゼパニヤの警告はきびしい調子のもので、神様の公正なさばきに基づいていました。ユダばかりか、ほかの周辺諸国も、自分たちの罪に対する神様のさばきを感じるようになります。

一

1 これは、ユダの王、アモンの子ヨシヤの治世に、神様からクシの子ゼパニヤに示されたお告げです。クシはゲダルヤの子、ゲダルヤはアマルヤの子、アマルヤはヒゼキヤの子です。

2 神様はこうお語りになる。「わたしは、地にあるものを一掃し、徹底的に滅ぼす。3 人も動物もだ。悪者は滅び、人はみな消え去る。空の鳥も海の魚も死に絶える。4 こぶしでユダとエルサレムを打ち砕き、まだ生き残っているバアル神の礼拝者を断ち滅ぼす。偶像に仕える祭司を抹殺し、彼らの記憶を完全に消し去ってしまおう。5 彼らは屋上で、太陽や月や星を拝んでいる。『神様に従っている』と言いながら、モレク神をも拝んでいる。わたしは、そんな彼らを滅ぼす。6 以前はわたしを礼拝していたのに、今は拝んでいない者や、わたしを愛したことも、愛そうと思ったこともない者を、断ち滅ぼす。」

7 静まって、神様の前に立て。恐ろしい審判の日がくるからだ。神様はご自分の国民を虐殺する手はずを整え、死刑執行人を選んでおられる。8 「審判の日に、わたしは、ユダの指導者と王子たち、それに異教の服を着た者をすべて罰する。9 よいか、異教の習慣に従う者や、盗みや人殺しをほしいままにして、主人の家を暴力や詐欺の悪徳で満たす者を罰する。10 警告の叫びが、エルサレムの中心から遠く離れた門からあがり、だんだん近づいて来る。ついに、攻め寄せる軍勢の叫びが、町が建っている丘のてっぺんまで響き渡る。

11 エルサレムの住民よ、泣き悲しめ。町の貪欲な商人、強欲な高利貸しは、一人残らず死ぬのだ。

12 わたしは、ともしびをかざして、エルサレムの暗いすみずみまで捜し回る。罪にどっぷりつきりきり、神は自分たちをそっとしておいてくれると考え、関心を示さない者どもを見つけ出して、罰するのだ。13 彼らの財産は奪われ、家は荒らされる。彼らは自分が建てた新しい家に住むことができず、自分が植えたぶどう畑のぶどう酒を飲むこともできない。」

14 「その恐るべき日は近い。急ぎ足でやって来る。その日には、勇士たちも泣きくずれぬ。15 それは神の怒りがぶちまけられる日、恐ろしい苦悩と苦痛の日、崩壊と滅

亡の日、暗やみと陰鬱、暗雲と暗黒の日だ。 16 ラッパが吹き鳴らされ、戦いの叫びがあがる。 そら、城壁で囲まれた町とその強固な塔がくずれ落ちる。

17 わたしはおまえたちを、手探りで道を捜し回る盲人のようにする。 神に罪を犯したからだ。 それで、おまえたちの血はちりのように振りまかれ、死体は地面に転がされたまま朽ち果てる。」

18 おまえたちの金も銀も、神様の怒りの日には役に立たない。 そんなもので罪を帳消しにはできない。 神様のねたみの炎が、全地をなめ尽くすからだ。 神様はユダの全国民を、たちまちのうちに滅ぼしてしまう。

二

1 さあ、集まって祈れ、恥知らずの国民よ。 2 審判が始まるまで、まだ時間がある。 残された機会はわずかだ。 もみがらのように吹き飛んでしまう。 さあ、神様の激しい怒りが襲いかからないうちに。 恐るべき神様の怒りの日が臨まないうちに。 3 謙そんに神様のおきてに従おうとしている者たちよ、さあ、神様に助けを請え。

謙そんになって、正しいことをせよ。 そうすれば、その運命の日に、守っていただけるかもしれない。

4 ガザ、アシュケロン、アシュドデ、エクロン、これらのペリシテ人の町も、根こそぎにされ、荒れ果てたままにされる。 5 地中海沿岸とカナンの地に住むペリシテ人は、のろわれよ。 審判はおまえたちにも向けられているからだ。 神様はおまえたちを、一人残らず滅ぼしてしまわれる。 6 海岸地帯は牧草地となり、羊飼いがテントを張り、羊がたわむれるようになる。

7 そこでは、わずかに生き残ったユダ部族が、家畜を放牧する。 彼らは、住む者もなくなったアシュケロンの家に、身を横たえて休む。 神様が、ご自分の国民を親しく訪れ、元どおり繁栄させてくださるからだ。

8 9 イスラエルの神様である、天の軍勢の主はお語りになる。 「わたしは、モアブ人とアモン人がわたしの国民をあざけり、この地を侵略したことを知っている。 わたしは生きている。 モアブもアモンも、ソドムとゴモラのように滅ぼされ、とげのあるいら草が茂る所、塩の穴、永久に人の住まない地となる。 生き残ったわたしの国民が、そこを奪って、自分のものにする。」 10 彼らは思い上がり、全世界を支配する神様の国民をあざけたので、報いを受けるのだ。 11 神様は彼らをひどい目に合わせ、世界の列強の神々をことごとく餓死させる。 全世界の人々はみな、自分の住む地で、神様を礼拝するようになる。

12 エチオピヤ人よ。 おまえたちも神様の剣で切り倒される。 13 北の地も同様だ。 神様はアッシリヤを滅ぼし、その壮大な首都ニネベ〔周囲百キロの大城郭都市だったが、完全に破壊された〕を、荒野のような不毛の地にする。 14 あの隆盛を誇っていた町が、羊の牧草地となり、あらゆる野獣が住みつくようになるのだ。 針ねずみは巣穴を掘り、はげたかやふくろうは宮殿の廢墟に住み、破れた窓で鳴いている。 からすは扉のところ

で鳴いている。 高価な杉の羽目板も、風雨にさらされたままだ。

15これが、「世界中で、これほどすばらしい都市はない」と言って、安らかに暮らしていた、あの繁栄をきわめた大都会の運命だ。 さあ、見よ。 その大都会が荒れ果て、動物の住みかとなってしまった。 そこを通る者はみなあざけり、とても信じられないといった顔で首を振る。

三

1 ああ、罪と汚れに満ちたエルサレム。 ああ、暴力と犯罪の町。 2 おごり高ぶって、神様の声に耳を貸そうとしない。 だれが忠告してもむだだ。 あらゆる懲らしめを拒んでいるからだ。 神様に信頼せず、求めようもしないのだ。

3 指導者は、獲物を求めてほえたけるライオンのような。 手に入れることができるなら、たとえ何であっても出かけて行く。 裁判官は、まるで日暮れの飢えた狼のような。 明け方には、もう食い尽くして、なに食わぬ顔をしている。

4 預言者はうそつきで、自分の利得しか考えない。 祭司は神様のおきてに背いて、神殿を汚している。

5 しかし、神様はそんな町におられても、不正を行なわない。 日に日に神様の正しさは明らかになる。 ところが、だれ一人そのことを気にも留めない。 全く恥知らずな悪人どもだ。

6 「わたしは多くの国を切り捨て、その全領地を荒廃させた。 通りは荒れ果てて静まり返り、町には住む人もない。 昔の繁栄をしのばせるものは何もない。 7 わたしは思った。 『今度こそ、彼らはわたしの言うことを聞かざる。 わたしの警告に耳を傾けるから、二度と、懲らしめることもあるまい』と。 ところが、そうではなかった。 どんなに罰しても、朝から晩まで、いや夕方から明け方まで、悪事を犯し続けている。」 8 それでも、神様はこうお語りになる。「もう少しのがまんか。 悪に染まった国々の罪を告発するために、わたしが立ち上がる時が、すぐに来る。 わたしは地上の国々を一つに集め、激しい怒りと憤りを下すことにしている。 全地は、わたしのねたみの炎で焼き尽くされてしまう。

9 その時、諸国民はきよいことを語り、全員が共に神を礼拝するようになる。 10 エチオピアの川のはるか向こうに住んでいる人々も、贈り物を携えて来て、もう一度彼らの神になってくれるよう、わたしに願い出る。 11 その時おまえたちは、もうわたしに反逆しないので、恥じ入ることもない。 おまえたちの中から、高ぶっている横柄な連中を取り除く。 わたしの聖なる山には、おごり高ぶる者は一人もいなくなる。 12 生き残った人々は、心から謙遜になって、わたしの名に信頼する。 13 罪を犯さず、偽りを言わず、欺くこともない。 静かで平和な生活を送り、安らかに眠りにつく。 だれにも脅かされることのない。」

14 シオン（エルサレム）の娘よ、歌え。 イスラエルよ、叫べ。 エルサレムの娘よ、心の底から喜び樂しめ。 15 神様はあなたを罰する手を引っ込め、あなたの敵を追い散

らすからだ。イスラエルの王である神様が、あなたのうちに住まわれる。 ついに、あなたの苦しみは終わる。 もう恐れることはない。

16 その日、エルサレムに告げ知らされる。「さあ、元気を出せ。 恐れるな。 17
18 神様が、あなたのうちに住むために来られた。 神様は力ある救い主で、あなたに勝利をお与えになる。 あなたのことをことのほか喜び、非常に満足なさる。 あなたを愛して、責めるようなことはなさない。」 ほら、聞こえてくるのは、喜びにあふれた聖歌隊の歌声であろうか。 いや、あれは神様が、あなたがたのことで、喜びいっぱいに歌っておられる声だ。

「わたしは傷ついた者を集め、おまえの恥をすすごう。 19 また、おまえを圧迫した者には、断固たる態度で臨もう。 寄るべのない弱い者を助け、追い散らされた者を集めよう。 捕囚としてあざけられ、はずかしめを受けた国民に、誉れを与えよう。

20 その時、わたしはおまえを呼び集め、家に連れ戻そう。 そして、全世界の国民の間で抜きん出た、りっぱな称号を授けよう。 おまえの目の前で、おまえを元どおり繁栄させる時、彼らはおまえを称賛するようになる。」 このように、神様がお語りになるのだ。

▪